

令和6年度の学校経営計画の達成状況等について以下の通り報告する。

1 本年度の最重点項目

- 児童・生徒を尊重し、保護者、地域から信頼される、安心・安全な学校
- 自立と社会参加を見据えた教育の推進
- 社会に開かれた学校づくりの推進
- 組織的な業務遂行と若手教員等への人材育成

2 今年度の取組目標と具体的方策、数値目標等及び結果

【標語】 A：達成（目標以上） B：ほぼ達成 C：やや未達成 D：未達成

*数値目標等は各項目の記載のとおり

（1）人権尊重の精神に基づく教育活動の推進

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	結果
①	教職員全員が、常に人権感覚を磨き、児童・生徒の人権を尊重し、体罰、不適切な指導、ハラスメントがない教育を実践する	保護者教員評価 100%	B：保護者 88% 教員 99%
②	個人情報の保護を厳守するとともに、自らサービスの厳正に努め、服務規律を遵守する	保護者教員評価 100%	B：保護者 90% 教員 100%
③	学年・クラス等で共有し、児童・生徒一人一人に卒業後を見越した適切な支援、指導を行う	教員評価 95%	A：教員評価 98%
④	いじめ、性被害、自殺予防の早期対応と相談、家庭との連携強化	保護者評価 100%	C：保護者評価 76% (わからない74件)
⑤	人権に配慮した日々の教育活動を実践する（児童・生徒の呼称、言葉遣い）	教員評価 100%	B：教員評価 98%
⑥	外部専門家（心理士）と連携した児童・生徒の悩み等の相談対応	年間 20 回	A：20 回実施
⑦	警察・少年センター・関係機関との連携した健全育成の取り組み	随時	必要に応じて活用

（2）安全・安心な教育環境の整備

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	結果
①	安全対策・事故の未然防止、施設の安全改善	羽村アップデート 50 件	A：羽村アップデート 54 件
②	安全な一人通学指導の推進	個別面談時に確認	個別面談時に確認
③	医療的ケア、アレルギー対応研修会及びマニュアルの改訂	随時	随時更新
④	実際に想定した災害時の避難訓練や行方不明搜索訓練等の実施	工夫した避難訓練 5 回以上	5 回実施
⑤	事故や災害時に適切に対応できるよう危機管理マニュアルの改善	随時	随時更新を実施
⑥	地域と連携した宿泊防災訓練の実施	地域参加者 20 名以上	参加者 23 人
⑦	スクールバスの円滑で安全な運行の徹底	連絡会毎月／研修会年 2 回	毎週金曜日にミーティング、期会合・研修会を 2 回実施
⑧	放課後等デイサービスとの連携	学校評価 90%以上	D：65%
⑨	家庭と連携した SNS 学校ルールの改善と徹底	個別面談等に対応	個別面談、個別指導等に対応

⑩	主治医、子ども家庭支援センター、児童相談所、警察、消防等関係機関と円滑な連携体制の強化	随時	年間を通して随時実施
⑪	P T A 役員等と定期的な懇談会の実施	年間 5 回以上	年間 3 回実施

(3) 自立と社会参加を目指した教育の充実

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	結果
①	個別指導計画、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）等に基づいた適切な指導の実施	保護者評価 95%以上	A：保護者 96%
②	児童・生徒の実態把握をもとに、学習環境の整備や I C T 機器等の活用、視覚支援等を効果的に活用した工夫と指導を行う	保護者・教員評価 90%以上	C：保護者 79% わからない 61 件
③	キャリア教育の視点をもち、地域資源を活用した授業実践を行う	保護者・教員評価 90%以上	B：保護者 83% 教員
④	外部専門員等の助言を活用し、指導や授業改善を図り、学年で共有する	教員評価 90%以上	A：98%
⑤	育成すべき 3 つの柱と主体的・対話的深い学びの視点を重視した授業を実践する	教員評価 90%以上	A：97%
⑥	教材ライブラリー等を活用しつつ、個々に合った教材の作成と効果的な活用を行う	教員評価 90%以上	A：92%
⑦	アセスメントに基づいた根拠のある指導を実践する	教員評価 90%以上	A：94%
⑧	本校の教育課題について学習指導に位置付け、実践を共有する	性教育、情報モラル教育実践等	キープセーフプログラムを高等部 3 年生で 18 回の授業実践

(4) 社会に開かれた学校づくりの推進

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	結果
①	研究指定「特別支援教育の理解促進に向けた障害者スポーツを通じた交流の推進」事業における TOKYO ACTIVE PLAN for students に基づく地域と連携したスポーツ活動及び生涯を通じた文化・スポーツなどによる部活動の推進（	高等部	球技部、サッカー部、バドミントン部、陸上競技部、音楽部、鉄道部、美術部
②	地域や家庭への理解啓発を促すための各通信等の発行	月／1 回	学校だより、進路だより、保健だより
③	卒業後を見越し、一人一人に応じた適切なキャリア教育（進路指導）、進路相談の実施	保護者・教員評価 90%以上	B：83%
④	進路に関する情報提供の実施	保護者・教員評価 90%以上	C：保護者 76% （わからない 70 件） 教員 88%
⑤	近隣の小・中学校、高等学校との交流	各学部	小学部：松林小 中学部：羽村 2 中 高等部：羽村高校 小平高校
⑥	区教育委員会や地域指定校との連携による副籍交流の実施	小・中学部	88 人が実施
⑦	就学前機関（幼稚園・保育園等）との連携強化と指導・助言の実施	年 30 回	B：相談件数 20 件 （小・中・高等学校 相談件数 70 件）
⑧	ホームページや X（旧 Twitter）の充実と本校の情報発信	更新 100 以上	H P 更新： X 発信：
⑨	生活支援シート等を活用し、家庭、医療、福祉等の関係機関との引き続き連携	随時	随時実施
⑩	地域資源を活用した学習活動の充実	各学部	羽村動物園 サイクルセンター、羽村支 社協、企業等

(5) 組織的・機能的な学校運営と人材育成

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	結果
①	教職員一人一人が「すべては子供たちのために」の方向性を統一するとともに、自己の職責を全うし主体的に、組織的に学校運営に参画する	教員評価 100%以上	B:90%
②	若手教員等の育成を図るため、チームを編成し組織的に行う	教員評価 95%以上	C:87%
③	ミドルリーダーを中心とし、所掌する業務の進行管理を適切に行う円滑な学校運営を行う	教員評価 95%以上	A:97%
④	主幹会では、連携を密にし、本校の課題の分析や本校が担うべき役割について情報を収集し、管理職に提言を行う	毎週実施	毎週金曜日に実施
⑤	企画調整会議は、学校の諸活動、諸課題について積極的に企画・提案し、学部・分掌会等を通じて教職員に周知する	毎週実施	毎週月曜日に実施
⑥	はむらの学び（シラバスの見直し、単元計画の作成）を組織的に行う	教科会	教科会を通じて単元計画を作成
⑦	P D C A サイクルによる学校評価の実施	全員	組織：各学部・分掌 個人：アンケートを実施
⑧	服務事故防止研修、ヒアリング等による服務規律の徹底	年5回／事故ゼロ	A:年間を通じて5回の研修を実施
⑨	管理職による教職員の時間外勤務の把握及び庶務事務システムを活用した教職員の自己管理の徹底	毎月実施	職員連絡会で活用方法を周知した
⑩	定時退庁日やマイ定時退庁日等の設定、会議等の工夫による働き方改革の推進	毎週定時退庁日を設定	毎週水曜日を定時退庁日に設定
⑪	効率的な会議運営等による働き方改革の推進	主幹教諭	会議の精選を実施
⑫	地域資源やT E P R O を活用した業務効率の推進	主幹教諭	年間を通して活用
⑬	適切な予算編成及び計画的な予算執行の徹底	センター執行率60%	A:センター執行率60%
⑭	委託業者（給食調理、清掃業者）との円滑な連携	毎月連絡会の実施	定期的に実施した

3 本年度のまとめ

(1) 全 体（学校評価アンケートを活用した数値目標）

今年度の学校経営については、セーフティ（安心安全）、スペシャリティ（専門性）、コラボレーション（協働）の3つを柱に行った。数値目標については現状把握をするため、設定できる可能な範囲で、学校評価保護者、教員アンケート活用した。学校経営計画と学校評価アンケートを関連付けさせることにより、教員のみならず保護者もより学校運営に関心をもつ機会になることを期待したい。

また、地域連携も学校経営の重点の1つに置き、放課後等デイサービス事業所等にも学校評価アンケートを実施した。これまで要望や意見等を聞き取る機会がなかったため、多くの意見をいただくことができた。日々実施している、児童・生徒の円滑な引き渡しや災害時の対応など改善を進める。

今年度の学校評価（保護者評価）の回収率は78%となり、昨年度を大幅に上回ることができた。学校に対する大きな期待と受け止め改善を進める。

以下、評価委員会が作成した「提言」を基に、次年度の学校経営計画に反映する。

(2) 提言

①セーフティ（安全安心）について

- ・人権意識の尊重は、人権週間を学校として定めた取り組みを今後も継続をお願いしたい。
一人一人の教職員が人権感覚を磨く努力を重ね、教育活動に生かすことを期待する。
- ・児童・生徒の遊出防止については、正門の門扉の電子錠化等の物理的な対応、教員のMicrosoft Teams等を活用した搜索訓練を継続的に進め、引き続き安全面の配慮をお願いしたい。日々の指導体制につい

ては確実な児童・生徒の把握、授業間の引継ぎの徹底をお願いしたい。

- ・これまで取り組んできた感染症対策や災害対応など、学校の防災教育の推進を引き続きお願いしたい。
- ・関連機関と連携した、安心・安全の学校の構築をお願いしたい。放課後等デイサービスへの引き渡しや非行や犯罪の時の警察対応など、連携を通した安全・安心の環境づくりを期待する。
- ・いじめや性被害、自殺予防についての取り組みについて、家庭との密な連携・相談、早期の発見や対策会議の設定を、より保護者にも取り組みが分かる形で進める。また、生徒側の意見を丁寧にくみ取り、対応策を示していくことをお願いしたい。

②スペシャリティ（専門性）について

- ・ICT 機器や情報活用スキルの向上は、教員研修や情報リテラシーの授業や取組を増やし、学校全体の情報教育における専門性の向上を期待したい。また、その使用の意義を保護者にも分かるように示してほしい。
- ・特別支援学校のセンター的機能を発揮する学校として、近隣福祉事務所や医療機関、自治会や行政機関との連携の向上を、引き続きお願いしたい。また、教育的視点と福祉的視点で相互に理解が図れる学校運営を期待する。
- ・進路指導、とりわけキャリア教育の学校全体における醸成。学部内、学部間の系統性の明確化や、卒業後に向けた学びの柱をより分かりやすくしていくことを望む。また、保護者向けの進路講演会やPTA 懇談会をとおして、将来の進路選択に向け、小学部や中学部で取り組むべき内容を分かりやすくし、進路決定の流れを明確にしていくことを期待したい。
- ・「高等部の進路」「日常生活の指導の手引き（ライフキャリア）」等、学校で備えたツールの活用を促進する。

③コラボレーション（協働）

- ・羽村市動物公園や近隣の学校等、地域連携や交流を進める。
- ・高等部の運動部に所属する生徒を中心に、福生市の GONA が主催した「スマイルスポーツフェスティバル」や羽村市が主催した「市民スポーツまつり」等、地域スポーツの参加を促進する。
- ・放課後等デイサービスなど、日々の駐車場利用や情報の公開など、情報の共有や伝達の促進に努める。
- ・教員間の連携、授業者同士の連携や研究授業の指導など、日々の指導も活用し研鑽を積む。
- ・学校講話などの保護者向け行事について、より多くの保護者に聞く機会が増えるよう、アーカイブ形式やオンライン設定等の視聴方法が増えていくとよい。
- ・児童・生徒の学校での様子の公開について。個人情報との兼ね合いを考えながら、学校の様子等が分かる方法を検討し、より保護者のニーズに答えられるよう、保護者の意見や考えを把握し、検討を進めることを期待する。
- ・授業や普段の様子がより見えるよう、学校の仕組みを整えていくことを望む。

4 令和7年度学校経営における重点

○目指す学校

「一人一人の可能性を尊重し、生きる力を育てる学校」

(1)人権尊重の精神で安心・安全な学校（セーフティ・スクール）

- ・人権週間→人権習慣（安心）、防災教育（安全）

(2)多岐にわたる特別支援教育の専門性を高める学校（スペシャリティ・スクール）

- ・役割を果たす、工夫する、育てる（組織）

(3)保護者や地域と協働する学校（コラボレーション・スクール）

- ・関わる、理解する、共に学ぶ

(4)デジタルを活用した教育活動の充実（スマート・スクール）

- ・研究指定校を生かした活動→ICT 機器を活用した研究授業